

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	3	学年・学科	1学年・D科
教科書	東京書籍「家庭基礎」(自立・共生・創造)		副教材	最新 生活ハンドブック (第一学習社)			

学習目標	○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて学習し、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手を目指そう。 ○様々な人と協力し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけよう。
学習方法	○世の中の課題に目を向け、自分の考えを発表したり、周りの生徒と話し合いながら課題解決の方法を探ります。 ○基礎的・基本的な技術を身に着けるため、実験・実習を行います。

学 習 評 価	評 価 の 観 点		評価の観点の趣旨			重み付け	考查	考查外
						100%	45%	55%
	a	知識・技能 (専門教科は知識・技術)	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	前期	知識・技能(技術)	35%	25%	10%
				中期	思考・判断・表現	35%	20%	15%
				後期	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%
	b	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	前期	知識・技能(技術)	35%	25%	10%
				中期	思考・判断・表現	35%	20%	15%
				後期	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%
	c	主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	前期	知識・技能(技術)	35%	25%	10%
				中期	思考・判断・表現	35%	20%	15%
				後期	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%

学期	単 元 名 (題 材)	学 習 内 容 (小単元)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期 中間	第1章 生涯を見通す	・人生を展望する ・目標を持って生きる	○	○	○	a. 生活を自分事にとらえ、主体的に営むための方法を理解することができる。実技の習得を目指し努力している。 b. 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、その課題解決に向けての方法を考えようと努力することができる。 c. 周囲と協働し、課題解決に向けて主体的に授業に参加することができる。	・授業での取り組み ・課題の提出状況 ・定期考查
	第2章 人生をつくる	・人生100年時代を生きる					
	第3章 子どもと共に育つ	・家族・家庭を見つめる ・子どもの育つ力知る ・子どもと関わる ・これからの保育環境					
前期 後期	第4章 超高齢社会を共に生きる	・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢期の心身の特徴	○	○	○	a. 生活を自分事にとらえ、主体的に営むための方法を理解することができる。実技の習得を目指し努力している。 b. 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、その課題解決に向けての方法を考えようと努力することができる。 c. 周囲と協働し、課題解決に向けて主体的に授業に参加することができる。	・授業での取り組み ・課題の提出状況 ・定期考查
	第5章 共に生き、共に支える	・私たちの生活と福祉 ・生活保障の考え方					
	第6章 食生活をつくる	・食事と栄養・食品 ・調理の基礎 ・調理実習					
後期 中間	第7章 衣生活をつくる	・被服を入手する ・被服を管理する ・被服実習	○	○	○	a. 生活を自分事にとらえ、主体的に営むための方法を理解することができる。 b. 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、その課題解決に向けての方法を考えようと努力することができる。 c. 周囲と協働し、課題解決に向けて主体的に授業に参加することができる。	・授業での取り組み ・課題の提出状況 ・定期考查
	第8章 住生活をつくる	・住生活の変遷と住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵					
後期 後期	第9章 経済生活を営む	・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 ・これからの経済生活	○	○	○	a. 生活を自分事にとらえ、主体的に営むための方法を理解することができる。実技の習得を目指し努力している。 b. 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、その課題解決に向けての方法を考えようと努力することができる。 c. 周囲と協働し、課題解決に向けて主体的に授業に参加することができる。	・授業での取り組み ・課題の提出状況 ・定期考查
	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を目指して					